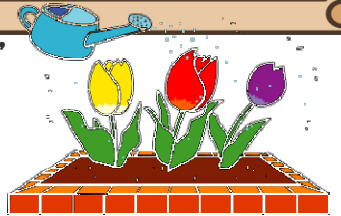


和地ひとみレポート No.270

東大和市議会平成30年第1回定例会 一般質問 “緑のまちづくりについて”
循環型の仕組みを確立し、市民協働で実現すべき



■第1回市議会定例会 一般質問

…平成30年第1回市議会定例会で、私は以下のテーマについて一般質問で取り上げました。

■食育について ※この内容はNo.269に掲載

- ① 東大和市の「食育」の取組方針は
- ② 現状について
⇒各学校の取り組みは
⇒学校以外の取り組みは
- ③ 新学校給食センター稼働によって変化したことは
- ④ 食育を充実することによる効果についての認識は
- ⑤ 課題と今後の対応について

■緑のまちづくりについて

- ① “緑のまちづくり”について、市が策定している関連する計画などには、どのようなものがあるか。また、それらに関連する市の内部の部課や他の組織にはどのようなものがあり、それらの協力体制の現状は。
- ② 緑のまちづくりを推進することで得られる効果についての認識は。
- ③ 目標に対する課題と対応について

…平成11年に策定された現行の『東大和市緑の基本計画』の計画期間が平成30年度で満了することから、市は平成29年度、平成30年度の2か年で本計画の改定を行っています。この改定を機に、市長は「緑と水のネットワークづくりについて」というテーマで1月にタウンミーティングを開催。私も参加しましたが、タウンミーティングでは東大和市の現状から将来像まで、様々な市の考えを確認することはできましたが、その実現のための具体的な取組については、今一つイメージが持てませんでした。

…東大和市の魅力の一つは緑豊かな点であることは間違いなく、さらに、市内を緑や花の豊かなまちにすることは、市が進めている「住みたい街、住み続けたい街」の実現に寄与することになると考えます。一方で、緑の保全には、人手とコストがかかるので、目指すまちの実現には、理想と現実のギャップを埋める具体的な取組が必要です。そこで、今回はこのテーマを取り上げました。

■関連する計画・部課は

…“緑のまち”と一言で言っても、この実現については、様々な人が協力しなければ実現しないと思います。行政では、俗にいう「縦割り」で業務にあたることで問題にされますが、この“緑のまち”の実現についても、縦割りで取り組んでは実現しません。

そこで、最初に“緑のまちづくり”に関連する、市の計画や組織体制について尋ねました。市長答弁では「“緑のまちづくり”に関連する計画、組織については『緑の基本計画』を柱として取り組んでいる。その上位計画としては『東大和市基本計画』と『東大和市都市マスタープラン』があるが、具体的施策については『緑の基本計画』に記載されている。また、関連計画としては『まち・ひと・しごと創生総合戦略』をはじめ『環境基本計画』『農業振興計画』などがある。関連する部、課等は都市計画課、環境課、土木課、産業振興課など多岐に渡り、相互の調整をはかり、市の緑の将来像の実現に向け取り組んでいるところだ。」とのことでした。

■市民との協働については

…関連する部、課についての市長答弁では、市民協働を担当する地域振興課については述べられませんでした。“緑のまちづくり”や“花のまちづくり”に取り組んでいる自治体は全国にたくさんあり、それらの自治体は必ずと言って良いほど、市民との協働でその取組を進めています。尾崎市長も“緑のまち”づくりには市民との協働を進めながら、民有地を含めた緑化に取り組んでいく必要があるとの考えを示しています。以前、私は市民協働について一般質問で取り上げましたが、その際、緑のボランティアなど市民団体との協働がすでに行われているとの答弁がありました。そこで、現在の緑のボランティアの状況を確認したところ「東大和市駅前の修景地において、緑のボランティアの花植を平成26年秋から始め、3年が経っている。現在の緑のボランティアの登録者数は、個人が33名、5団体と総勢50名弱となっている。駅前の花植えに係るボランティア会議の開催などにより、活動場所が異なるボランティアさん同士が顔を合わせる機会が増え、徐々にではあるが、緑のボランティア同士の横のつながりができてきている。」とのことでした。

…また、市役所の南側の“市役所通り”では、市民団体が花を植える活動をしています。花の苗は季節ごとに植え替えが必要ですが、その苗は誰が用意しているのか確認したところ「市内にある社会づくりの運動・活動をしている団体から、市役所通りに花植えを行いたいとの提案があり、植樹ますの除草やゴミ等の清掃の管理を含めて、道路管理者である市が占用の許可を出している。そのような経過から、苗については、この主催団体で費用を出し、用意していただいております。参加者からもご負担いただいていると聞いています。」とのことでした。
(裏面に続く)

…花や木を維持していくためには、コストがかかります。市には桜の木を植えてほしい等の要望が多く寄せられているようですが、これらのことを実現するためには、植える植物（苗木、苗など）を購入する費用と、それを手入する費用と手間がかかります。“緑のまち”を実現するために、市は予算を新たに確保できるのでしょうか。また、来年度の施政方針では「花を植えることを楽しめる公園」を作ることが示されましたが、それらの苗は市が用意するのかどうかを確認しました。「樹木の苗木については、東京都苗木生産供給事業において、桜やキンモクセイ、ブルーベリーなど20～30種ほどの苗木を供給いただける事業を活用し、手配することは可能だ。桜などの苗の供給は容易に受けられるが、植樹する場所や植樹後の維持管理に費用が掛かることから、簡単には進まないところだ。花苗については、このような事業がないことから、自前で用意しなければならないが、多くの費用をかけることはできないと考えている。平成30年度に予定している『花づくりの楽しめる公園』の整備については、種から苗をつくり、植えていく、若しくは、挿し木などにより、株を増やしていくなど、できるだけ経費をかけずに、進めてまいりたいと考えている。」との答弁でした。

■循環型社会の構築と結びつけては…

…“緑のまちづくり”や“花のまちづくり”は様々な自治体が目指していますが、どこでも課題となるのが「人の確保」「予算の確保」です。そんな中、ゴミの削減と“花のまちづくり”ということを手早く結びつけた施策を進めている戸田市と蕨市の衛生センター組合が行っている「リサイクルフラワーセンター」については、大いに参考になると思います。私も以前、市議会建設環境委員会のメンバーとして施設見学をし、その取り組みに感心したことを覚えています。このリサイクルフラワーセンターでは、年間約8万鉢の花苗を生産。生ゴミ専用バケツを作り、そのバケツで生ゴミを持ってきてくださった市民には8鉢の花苗を“ゴミ＝肥料の原料との交換”という形で配っています。また、センターでは高齢者や障がい者の方を雇用。補助金と給与を足せば障害者の方が自立できる給与が支払われています。このように戸田市と蕨市では“花いっぱい”のまちづくりを様々な施策と組み合わせで実現しています。このような取り組みについての市の考えを確認したところ「循環型社会の構築に向け、良い事業であると考えているが、実施に当たっては、予算や担い手の確保などの課題がある。」との答弁だったので、実現するとした場合、当市の一番の課題は、費用、人、場所というどれになるのかを再度、確認しました。「費用、人、場所の3点については、いずれも大きな課題だが、実現に向けた基礎づくりとして考えた場合、ゴミ対策課の限られた資源である、中央ストックヤード用地を使用し、平成30年度当初予算で計上を考えている環境課での花づくりの予算でのやりくりとした場合、草花をどのような方法で市内に植えていくか、また、それを継続していくための市民の方をどのように確保していくかが課題であると考えている。」とのことでした。

■新たな試行的取組みに期待

…答弁の中で「中央ストックヤード用地を使用して…」とあったので、その内容について確認したところ

「中央ストックヤードは、東大和市商工会の東側にあるスペースだ。現在、この場所では、市内の約50世帯から回収した生ゴミを、コンポスターを使用して、堆肥化している。受入量に限りがあるため、小規模だが、花苗を栽培することは可能であると考えている。」とのこと。前述の戸田市と蕨市の衛生センター組合が行っている「リサイクルフラワーセンター」のミニチュア版のような内容で、大いに期待したい取組みです。

…また、現在、武蔵村山市の民間事業者に処理を依頼している当市のビン、カンのゴミ処理については、その期限も3年で、その後の対策は待たなしの状態です。例えば、今後のビン、カンの処理については、家から出た枝木、落ち葉などのリサイクル、前述の生ゴミのリサイクルなども一緒に行えるような場所を整備することも一案だと思います。一つの課題をそれだけで解決しようとせず、ゴミ、リサイクル、花づくりなどと総合的に考え、かつ、市有地の利活用、住みたいまちの実現などと共に仕組みを構築していくことが今後は必要だと思います。その点について市の考えを確認したところ「市内で発生した廃棄物をどのように処理していくかは大きな課題だと考えている。その中で、枝木や落ち葉などを活用し、花づくりまでの一貫した循環型のシステムの構築は、中期的な目標として取り組む必要があるものと考えている。費用対効果も踏まえた中で、総合的に考える必要がある。」との前向きな答弁をいただきました。

…“緑のまち”や“花のまち”を実現するためには「花づくり」「人づくり」「地域づくり」が必要だと一般的には言われています。この中でも、「人づくり」は重要なキーとなります。その点については「前述の中央ストックヤードでの取り組みについては、生ゴミの減量にご協力いただいている約50世帯の方と、廃棄物減量等推進員の方が市内に35名ほどいらっしゃるの、まずは、この方々にお声がけし、ご協力を求めることは可能であると考えている。また、事業が一過性でなく継続性のある取り組みとなっていくためには、専門的知識と技術をもった方をより多く入れ、人材育成していくことも不可欠と考えている。」とのことでした。

■住みたいまちの実現に向け

…“花いっぱい”のまちを目指している多くの自治体では市民と行政が協働して取り組める仕組みを確立し、「全国花のまちづくりコンクール」に参加。国際コンクールも目指しています。

市長は、就任の際、花いっぱいのまち、まちを歩いて花を楽しめるまちを目指したいと言っていました。その実現には市民と取り組み、継続できる東大和市ならではの仕組みの確立が必要です。「住みたいまち、住み続けたいまち」そして「誇れるまち」という目標に向かって、一歩ずつでも具体的に事業を進めてほしいと思います。



市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。
「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

東大和市 市議会議員
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>
✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102